

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(サウジアラビア:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html> )

マイライブラリー:0283

2013.10.21

前田 高行

## (ニュース解説)前代未聞！サウジアラビアが国連安保理事国を辞退

10月16日、国連総会でサウジアラビア、チャド、チリ、ナイジェリア及びリトアニアの5カ国が任期2年の安全保障理事会非常任理事国に選ばれた。ところが翌日サウジアラビア外務省は理事国を辞退するとの声明を発表した。非常任理事国に選任されるためには長期間にわたる周到な根回しが必要である。ましてサウジアラビアは初の理事国となる栄誉を得たのである。これを辞退するとは国連史上でも前代未聞のことで世界中に大きな波紋が広がった。

サウジアラビア外務省は辞退声明の中で、現在の安保理はダブル・スタンダード(二重基準)が横行していること、そして中東のパレスチナ問題及びシリア内戦問題が解決できないことを取り上げ、安保理の改組が必要である、と現状を強く非難した<sup>1</sup>。サウジアラビアは国際紛争の平和的解決を外交の基本方針としており、従来から国連重視の姿勢を貫いてきた。それにもかかわらずサウジアラビアが安保理に出席して信ずるところを主張する機会を自ら絶ったのは余程の深い理由があると言えよう。

現在の安保理は拒否権を有する米国、ロシア、英国、フランス、中国の常任理事国5カ国の力が圧倒的に強く、非常任理事国の意見は余り斟酌されない。さらに国連総会における多数決すら安保理で拒否権が発動される現状に、サウジアラビアは強いフラストレーションを抱いてきたのである。

外務省声明で上げた二つの事例—パレスチナ問題とシリア内戦—におけるサウジアラビアのフラストレーションとは何であろうか。まずパレスチナ問題についてはこれまで何度となく安保理に上程されたイスラエル非難決議はその都度米国の拒否権発動で葬られ、また一昨年秋パレスチナが国連加盟を申請した時も米国が拒否権発動を明言したため結局オブザーバー参加にとどまっている。一方、シリア問題については国連決議によるアサド政権への軍事介入に対してロシアが難色を示しこれまた拒否権発動を示唆したため、シリア問題はこう着状態にある。その間にも難民の数は増え続け内戦終結の道は見えないままである。サウジアラビアが重視する二つの問題は米露二大国に拒否権がある限り解決が容易ではない。

アラブ諸国もサウジアラビアの辞退に理解を示しており、アラブ連盟のアラビヤ事務総長は「サウジアラビアの決定は勇気ある重要な決断だ」と述べ、エジプト、トルコ、チュニジアなどもサウジの決定を支持している。興味深いのは常任理事国のフランスが「サウジアラビアのフラストレーションは理解できる」と述べていることである<sup>2</sup>。フランスが敢えてこのような言い方をするのは、米露が拒否権行使をちらつかせ他の常任理事国すら振り回されることに対して、誇り高いフランス自身に「フラストレーション」が溜まっているから、と

考えるのが妥当であろう。

サウジ外務省の唐突な声明がどのような経緯で発表されたのかも興味あるところである。この決定がアブダラー国王自身によるものであり、腹心のサウド外相の意見を聞いたであろうことは疑いようが無い。国王と外相は国王の皇太子時代から特別な信頼関係にあり、二人は一蓮托生の強い絆で結ばれている<sup>3</sup>。そして最近では老齡の国王に替わり外交交渉や外国訪問はサウド外相が一手に引き受け国王の信任は厚い。

国王とサウド外相の間でどのような話し合いがあったかは解らないが、二人とも外交問題で米露をはじめとする超大国に対して大きなフラストレーションがあったことは間違いない。国王は皇太子時代の2002年に「サウジ・イニシアティブ」と呼ばれる包括的な中東和平を提案し国際社会から高い評価を得た。その内容は国際政治の常識に沿った極めて妥当なものであった。しかしこの提案に対して米国は表面上賛同したものの、まじめに取り上げることはなかったのである。その後、老齡の国王に替わってサウド外相が中東和平に駆けまわったが、米国の反応は冷ややかであった。今や二人とも米国外交に対するフラストレーションが高まっている。

国王のみならずサウド外相も今年72歳の高齡である。二人に残された時間は少ない。非常任理事国の立候補に時間と手間暇をかけながら当選直後に辞退するのは国際政治の常識をはるかに越え理解に苦しむ対応である。二人が当初から今回のような筋書きを考えていたと仮定すれば、これはまさに「超」の付くどんでん返しである。もしそうだとすればこれは国王と外相二人の名門歌舞伎役者が舞台の幕切れで乾坤一擲の大見得を切ったと言うことになる。果たして第二幕はあるのだろうか？

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

---

<sup>1</sup> Arab News on 2013/10/19, 'Kingdom will not be part of ineffective Security Council with double standard' <http://www.arabnews.com/news/468162>

<sup>2</sup> Gulf Daily News on 2013/10/20, 'Saudi says 'No' to UN'  
<http://www.gulf-daily-news.com/NewsDetails.aspx?storyid=363177>

<sup>3</sup> 拙稿「辞めさせてもらえないサウド外相とナイミ石油相」(2007年4月)参照。  
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0154SaudNaimi.pdf>